

秋田県

広域化・共同化計画ブロック割 概要



【県の概要】(2017.10)

13市9町3村

面積：11,637.52km² (全国6位)

人口：995,374人 (全国38位)

↓2025社人研推計値

885,000人

人口密度：85.53人/km² (全国45位)

↓2025

76.05人/km²

考え方
のベース

歴史的背景 (旧郡部)

旧秋田市

旧郡部：9



観点① 流域下水道の同処理区

➤県内5つの流域下水道の構成市町村を考慮する。



観点② 現行事業のつながり

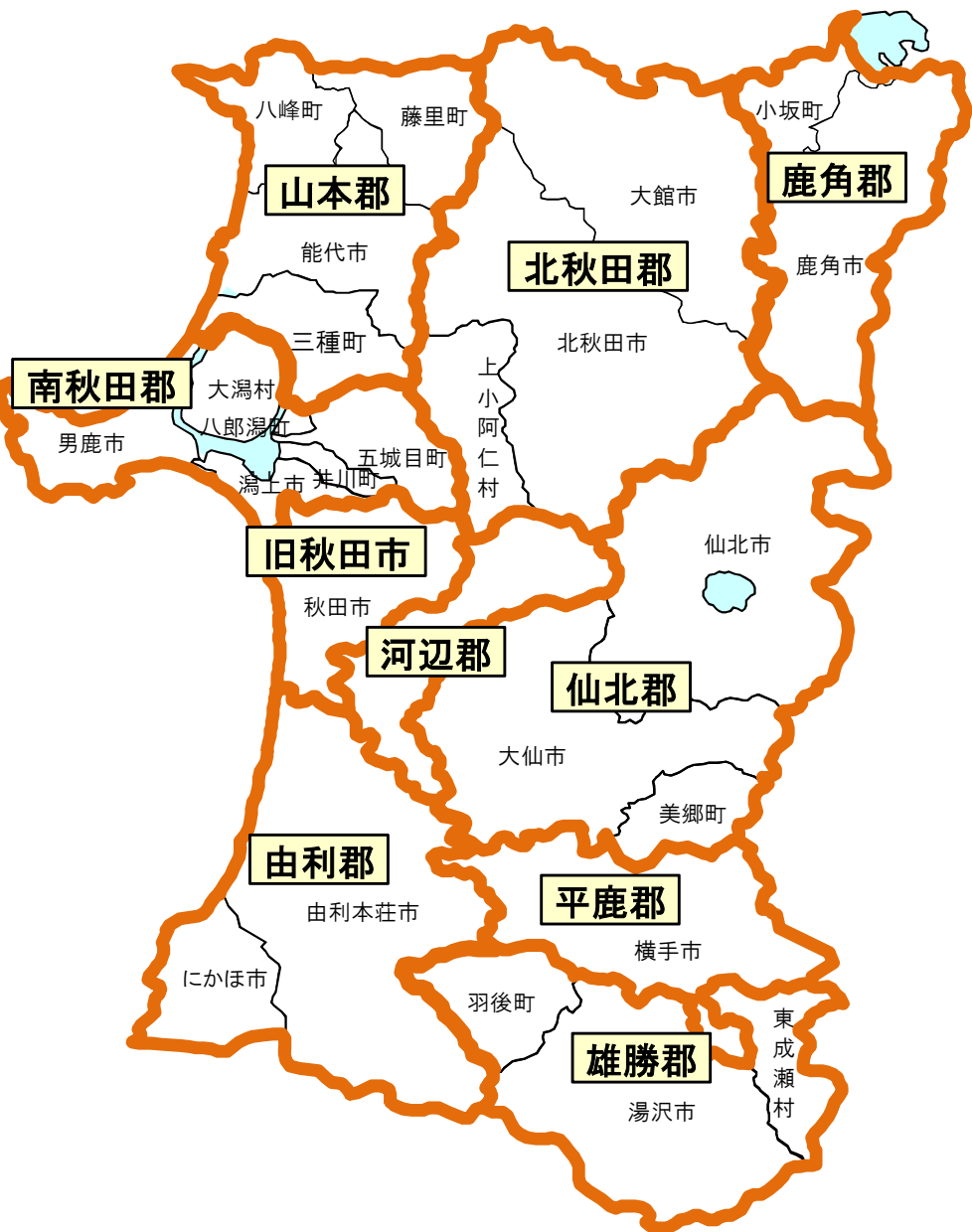
➤現行の汚泥処理やし尿処理事業等において、
広域化・共同化を行っている市町村を考慮する。
➤維持管理業者が同一で、一括発注を行って
いる市町村を考慮する。



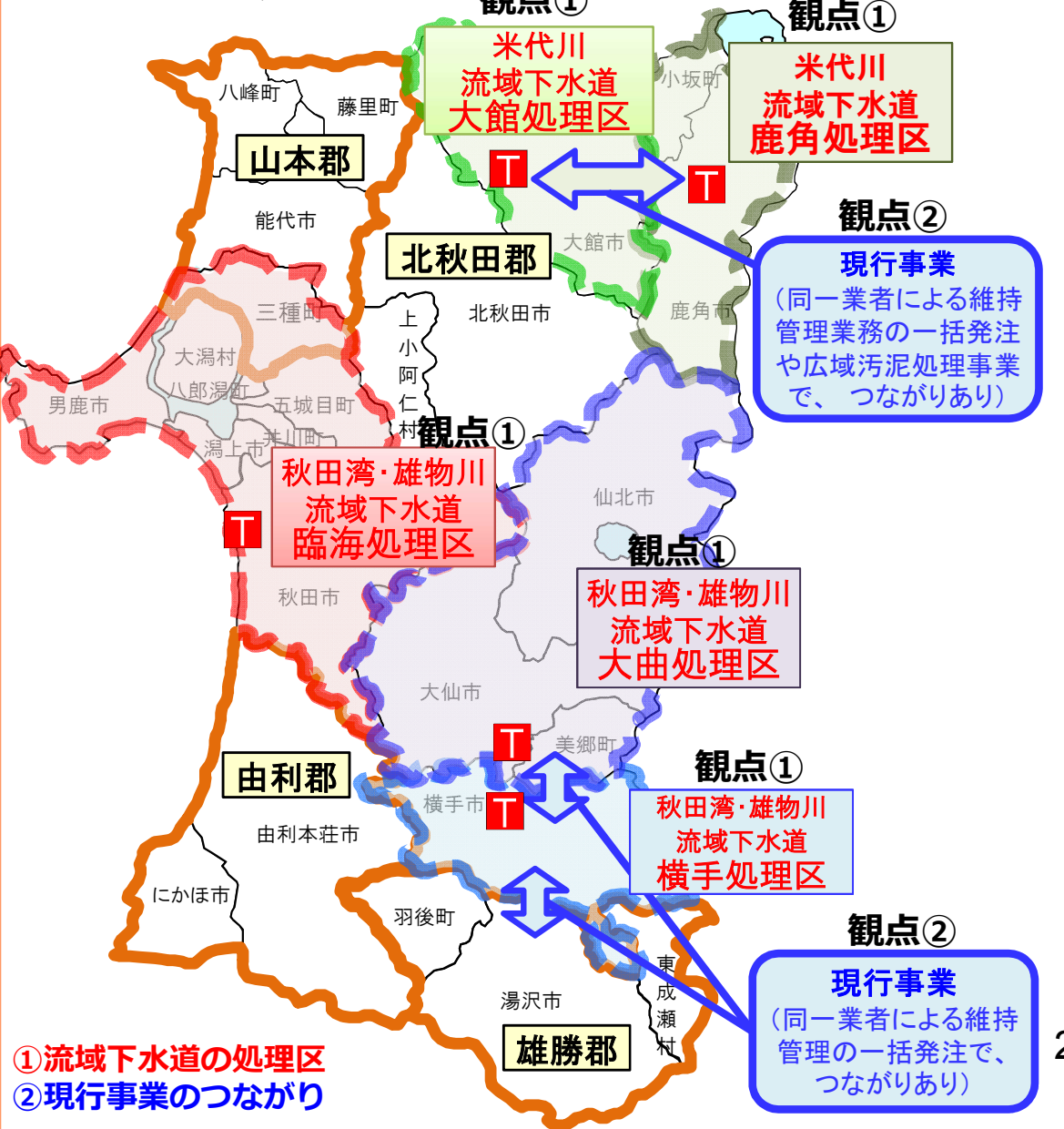
ブロック割 6ブロック

秋田県-広域化・共同化計画ブロック割の考え方-

ベース：歴史的背景（旧郡部）をベースに検討



観点：流域下水道の処理区や現行事業のつながりから
更にグルーピング



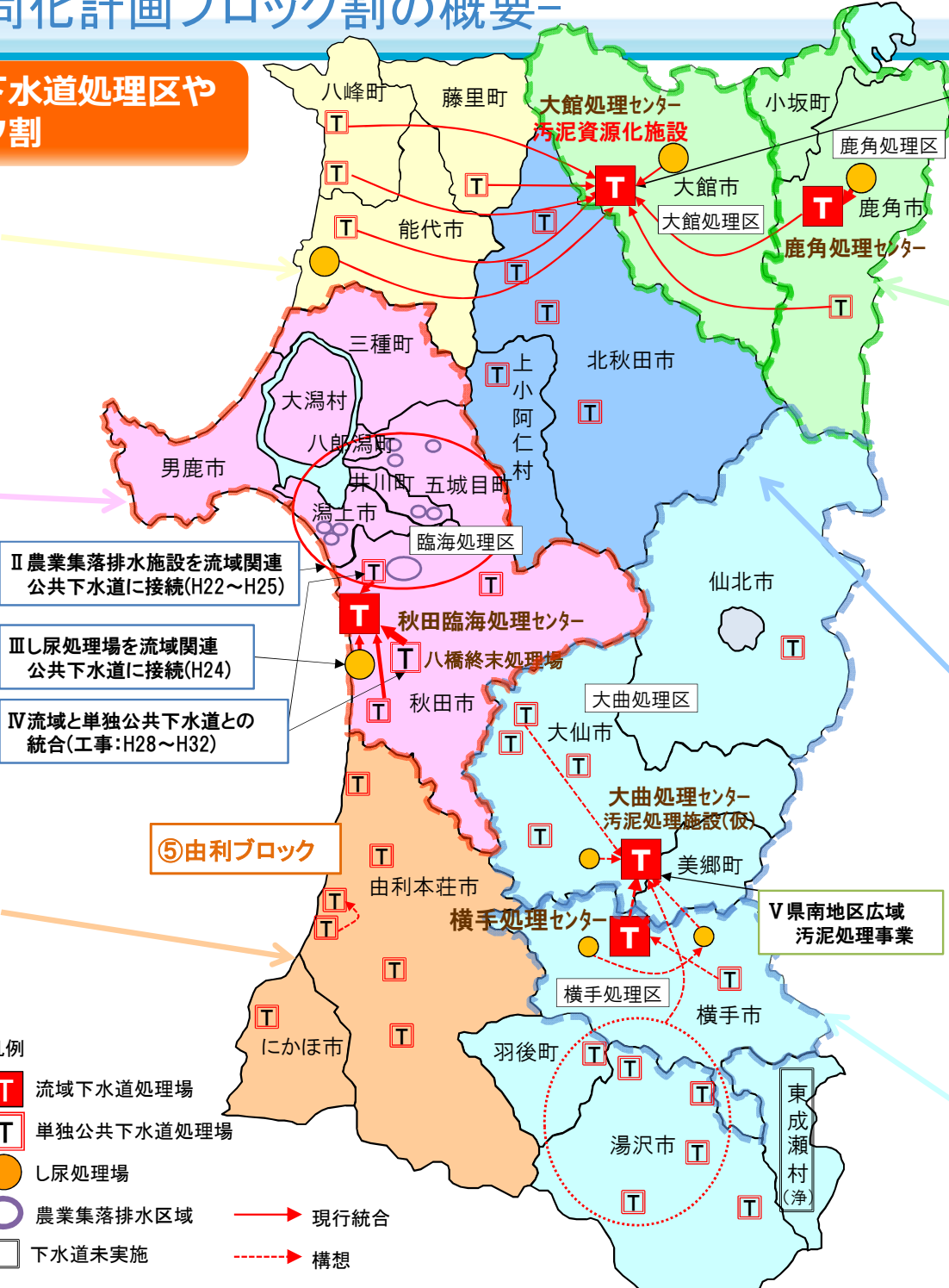
秋田県-広域化・共同化計画ブロック割の概要-

歴史的背景をベースに流域下水道処理区や現行事業を考慮したブロック割

①能代山本ブロック
(単独公共)
・「官民連携」検討を通じ、広域化の必要性を学んでいる段階。

モデルブロック
④秋田中央ブロック
(流域関連、単独公共)
・順次施設を統廃合しており、H32には単独公共を流域に接続予定である。
・新たにし尿処理施設の接続が要請されている。

⑤由利ブロック
(単独公共)
・地勢や、し尿の広域処理など密接なブロックである。
・由利本荘市で6処理場の包括委託を行っている。



I 県北地区広域汚泥資源化事業(工事:H29~H32)

②大館鹿角ブロック
(流域関連・単独公共)
・県と市町で“県北地区広域汚泥資源化事業”を進め広域化に前向きである。
・大館市は未普及地域面整備をDB方式で実施し、官民連携に積極的である。

③北秋田ブロック
(単独公共)
・北秋田市が市と上小阿仁村が使用する、し尿処理施設を建設(H32.3予定)し、施設の処理水を鷹巣浄化Cで受入れる等広域化に取り組んでいる。

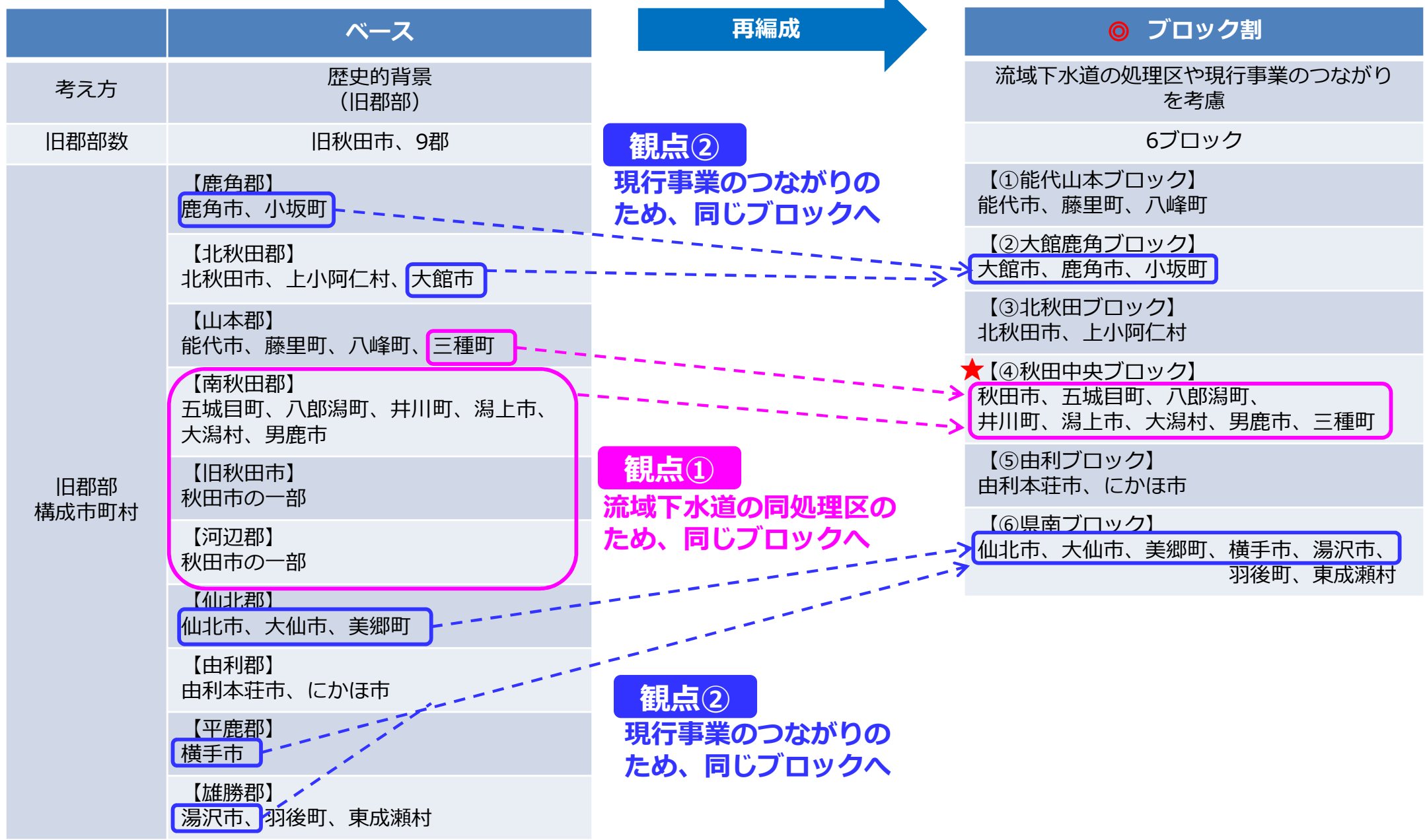
⑥県南ブロック
(流域関連・単独公共)
・県と市町等で“県南地区広域汚泥処理事業”の実施に向け取り組んでいる。
・勉強会の開催等で市町村職員が広域化の必要性を理解している。

- 凡例
- T 流域下水道処理場
 - T 単独公共下水道処理場
 - し尿処理場
 - 農業集落排水区域
 - 下水道未実施
 - 現行統合
 - 構想

秋田県-広域化・共同化計画ブロック割の概要-

ブロック割の考え方

★:モデルブロック



ブロック割の考え方

1. **歴史的背景（旧郡部）**や**現行事業の繋がりに配慮**し、以下6つのブロック割を素案とする。



県北部 ⇒①能代山本ブロック、②大館鹿角ブロック、③北秋田ブロック
県中央部⇒④秋田中央ブロック、⑤由利ブロック
県南部 ⇒⑥県南ブロック

2. 今回の提示を通じて、市町村相互の理解を深めるとともに、平常時と災害時のニーズの掘り起こしを図りたい。

モデルブロックの選定



秋田中央ブロック（前頁図④ブロック）

【選定理由】

秋田中央ブロック

- 流域下水道を管理している県、又は技術力の高い**秋田市がブロック内のリーダー**と位置づけられる。
- 順次施設を統廃合している段階であり、他ブロックに比べて広域化・共同化への素地が高いといえる。
- 中心的な自治体がリーダーシップを執るモデルを形にすることで他ブロックへの水平展開が期待される。

今後の課題

- 広域化・共同化の必要性及びメリット・デメリットに対する理解を深めることが必要である。
- 広域化・共同化の範囲について、**時間軸を考慮してソフト面とハード面の双方の検討が必要**である
（例）当面：流域下水道と公共下水道との施設統合（ハード）
I C T活用・事務等の人に関する補完（ソフト）
将来：維持管理や工事等のモノに関する補完（縦の展開：レベルアップ）
ブロック界を超えた更に広範囲な補完（横の展開：スケールアップ）

岩手県

広域化・共同化計画チーム割概要



【県の概要】(2017.10)

14市15町4村

面積：15,275.01km² (全国2位)

人口：1,254,807人 (全国32位)

↓2025社人研推計値

1,171,000人

人口密度：82.15人/km² (全国46位)

↓2025

76.66人/km²

考え方のベース
県の行政区分（組織体制）
広域振興局：4
土木関係行政センター：14

観点① 流域下水道の同処理区

➢ 県内4つの流域下水道処理区の構成市町を考慮する。

観点② 現行事業のつながり

➢ 現行事業において、MICSやスクラムのつながりのある市町村を考慮する。

観点③ 同一の維持管理業者

➢ 処理場の維持管理業者が同一の市町村を考慮する。

チーム割10チーム

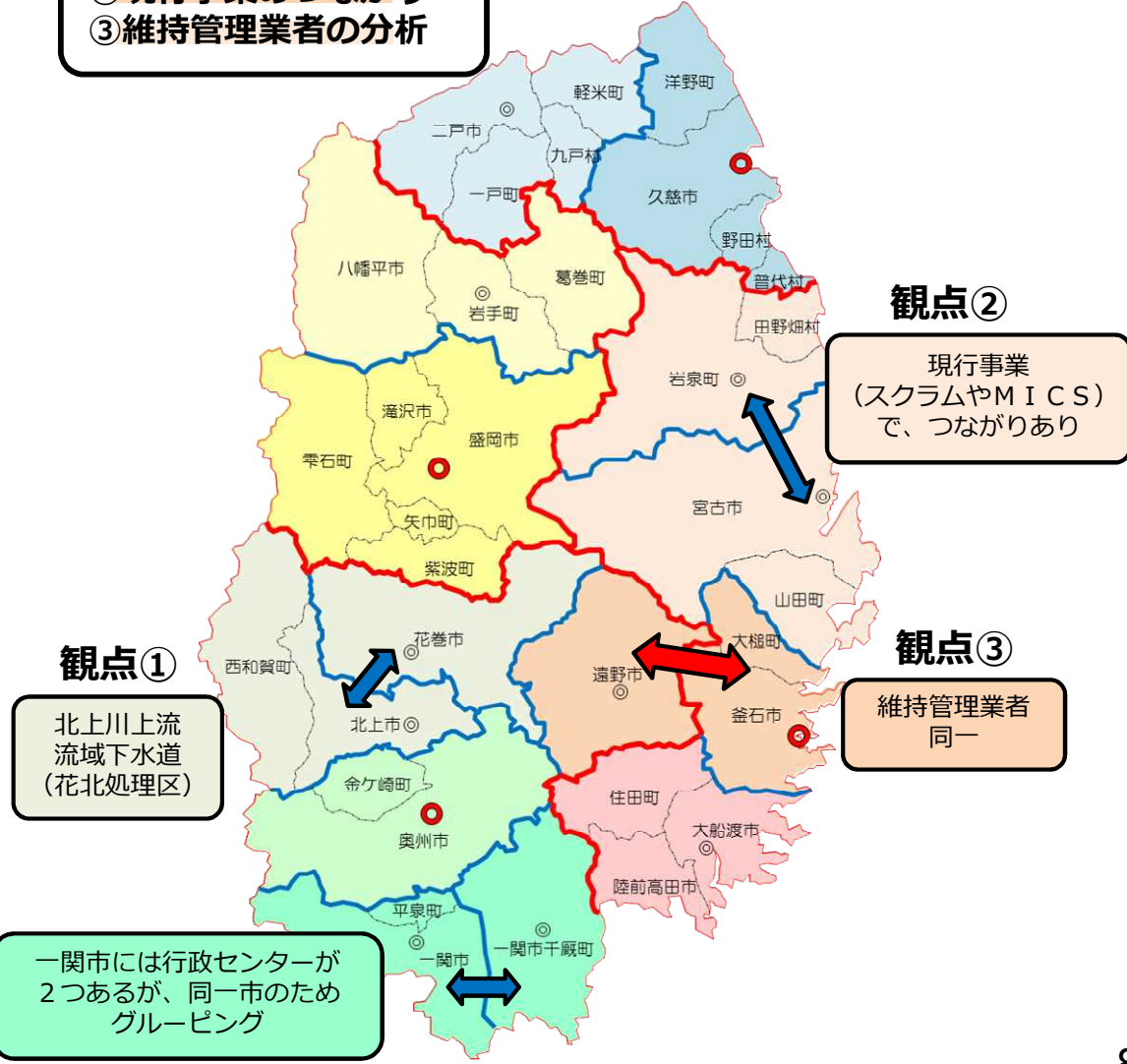
ベース：県の行政区分(組織体制)をベースに検討

- ：広域振興局位置
- ◎：土木関係行政センター位置
- ：広域振興局境界線
- ：土木関係行政センター界



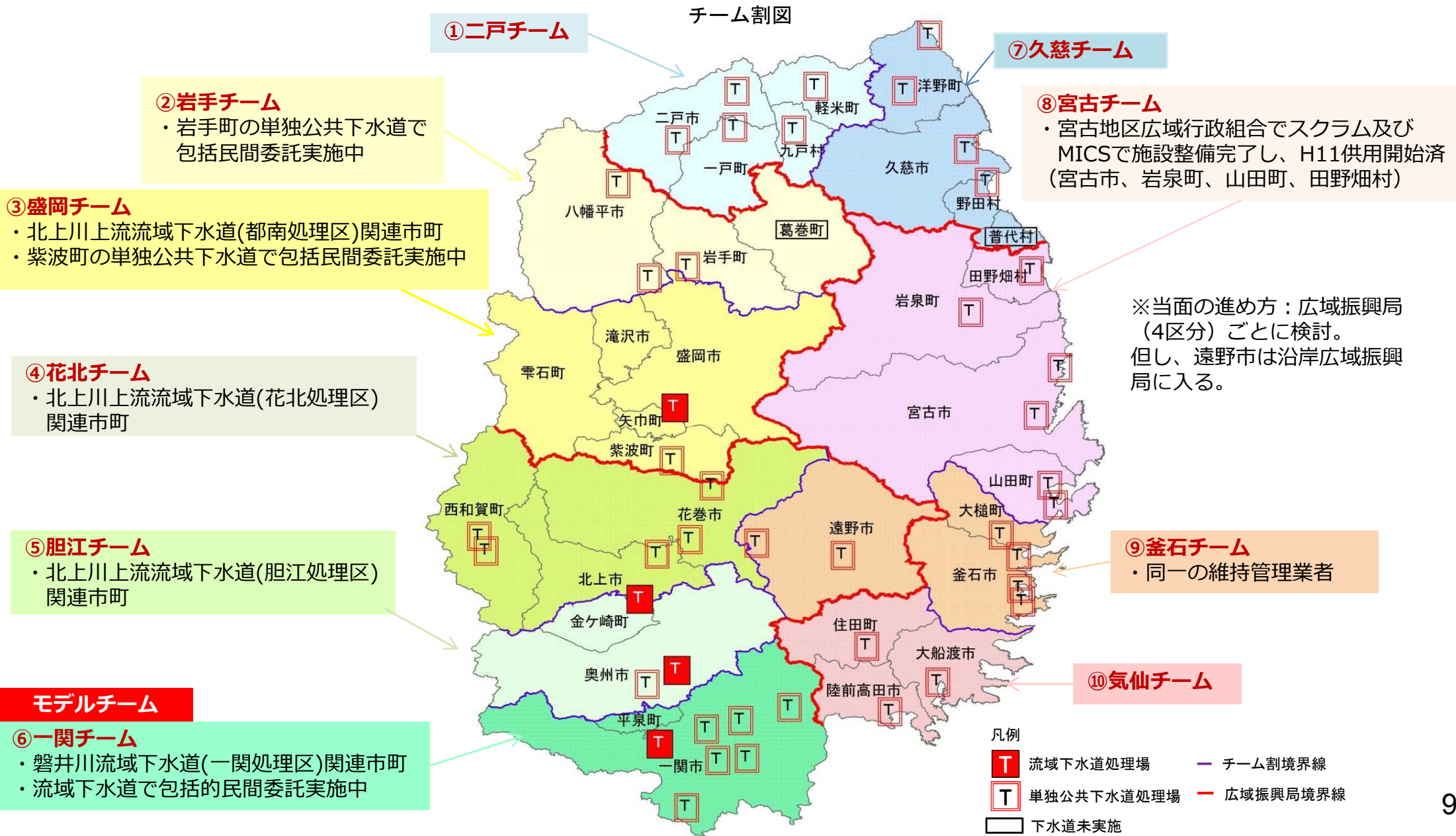
観点：市町村等を下記観点から更にグルーピング

- ①流域下水道の処理区
- ②現行事業のつながり
- ③維持管理業者の分析



岩手県-広域化・共同化計画チーム割の概要-

下水道、農業集落排水、漁業集落排水等の維持管理の広域化・共同化を中心に検討するチーム割
 ※岩手県においてはメニュー内容や広域化・共同化を行う目的によってチーム割のパターンが複数となること想定されるもの



岩手県-広域化・共同化計画チーム割の概要-

チーム割の考え方

		ベース	
考え方	県の行政区分		
組織/ チーム数	県の広域振興局 (4組織)	土木関係行政センター (14組織)	
ブロック 構成市町村	県北広域振興局	二戸市、一戸町、軽米町、九戸村	再編成
		久慈市、洋野町、野田村、普代村	
	盛岡広域振興局	八幡平市、岩手町、葛巻町	
		盛岡市、滝沢市、雫石町、矢巾町、紫波町	
	県南広域振興局	花巻市	
		北上市、西和賀町	
		遠野市	
		奥州市、金ケ崎町	
		一関市、平泉町	
		一関市東磐井地域	
		岩泉町、田野畑村	
		宮古市、山田町	
釜石市、大槌町			
沿岸広域振興局	大船渡市、陸前高田市、住田町		

観点②
MICsで連携のため、
同じチームへ

観点①
流域下水道の
同処理区のため、
同じチームへ

観点③
同一の維持管理業者の
ため、同じチームへ

★:モデルチーム

◎ チーム割	
施設の維持管理や現行事業の繋がりを考慮	
10チーム	
【二戸チーム】	二戸市、一戸町、軽米町、九戸村
【久慈チーム】	久慈市、洋野町、野田村、普代村
【岩手チーム】	八幡平市、岩手町、葛巻町
【盛岡チーム】	盛岡市、滝沢市、雫石町、矢巾町、紫波町
【花北チーム】	花巻市、北上市、西和賀町
【胆江チーム】	奥州市、金ケ崎町
★【一関チーム】	一関市（一関市東磐井地域含む）、平泉町
【宮古チーム】	宮古市、岩泉町、山田町、田野畑村
【釜石チーム】	釜石市、大槌町、遠野市
【気仙チーム】	大船渡市、陸前高田市、住田町

―部は広域振興局本局及び土木関係行政センター所在地

※検討作業は岩手県汚水適正処理推進会議
幹事会を活用して進めることで承認済。

チーム割の考え方

- 1.当県は、地形上、山間部を多く有し市町村間の距離が長く、集落排水等との事業間統廃合は出来るところから進めている状況。
- 2.1により、処理場の統廃合だけでなく、**処理場の維持管理等ソフトメニューの広域化・共同化を中心に検討するチーム割**を設定。

《分け方の主な4つの視点》

地形や地縁を踏まえた県の行政区分(広域振興局及び行政センター)、流域下水道の処理区分、維持管理者、現行事業



- ①二戸チーム、②岩手チーム、③盛岡チーム、④花北チーム、⑤胆江チーム、⑥一関チーム、⑦久慈チーム、⑧宮古チーム、⑨釜石チーム、⑩気仙チーム

※当面の進め方：広域振興局（4区分）ごとに検討。但し、遠野市は沿岸広域振興局のチームに入る。

モデルチームの選定

→ **一関チーム（前々頁図の⑥チーム）**

【選定理由】
県と市町の維持管理の共同化の可能性があり、具体的には、
■一関市の農業集落排水の8処理場において、**ICTを活用したクラウド型の遠方監視**を取り入れており、**公共下水道、流域下水道での拡大活用の実現可能性が高い。**
■一関市は圏域に流域下水道処理場1か所、公共下水道処理場6か所を有し、**一体的・効率的な維持管理をすることで、統合化による効果が高いことが想定される。**

今後の課題

- 一部の市町村に広域化・共同化に関するアンケートを実施した結果、**市町村間で温度差**がある。
- メニュー内容や広域化・共同化を行う目的によってチーム編成も多岐に渡ることが予想され、合意形成等にかなりの時間がかかることが想定される。
- 流域下水道(県事業)の入っていない地域のメニュー検討における県の先導的役割が難しい。**

静岡県

広域化・共同化計画 ブロック割概要



【県の概要】(2017.10)

23市12町

面積：7,777.43km² (全国13位)

人口：3,673,401人 (全国10位)

↓ 2025社人研推計値

3,511,000人

人口密度：472.32人/km² (全国13位)

↓ 2025

451.43人/km²

考え方
のベース
①

基本的な地域区分：4
東部、中部、西部、伊豆半島

➤昔から基本的な地域区分は東部、中部、西部の三分割。さらに西部、中部に加えて、東部を東部と伊豆に分割し4分割。

考え方
のベース
②

県総合計画における地域区分：4
東部、中部、西部、伊豆半島

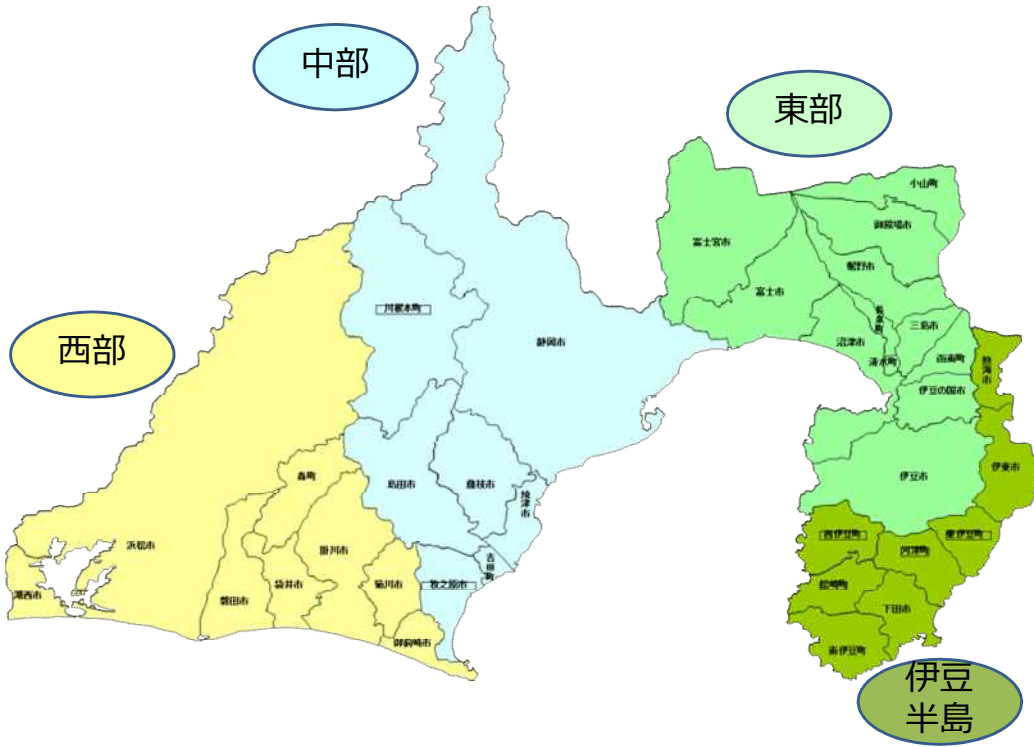
➤地域区分は厳密に区切られるものとはとらず、ボーダレスな視点から広域的な施策を展開していく。



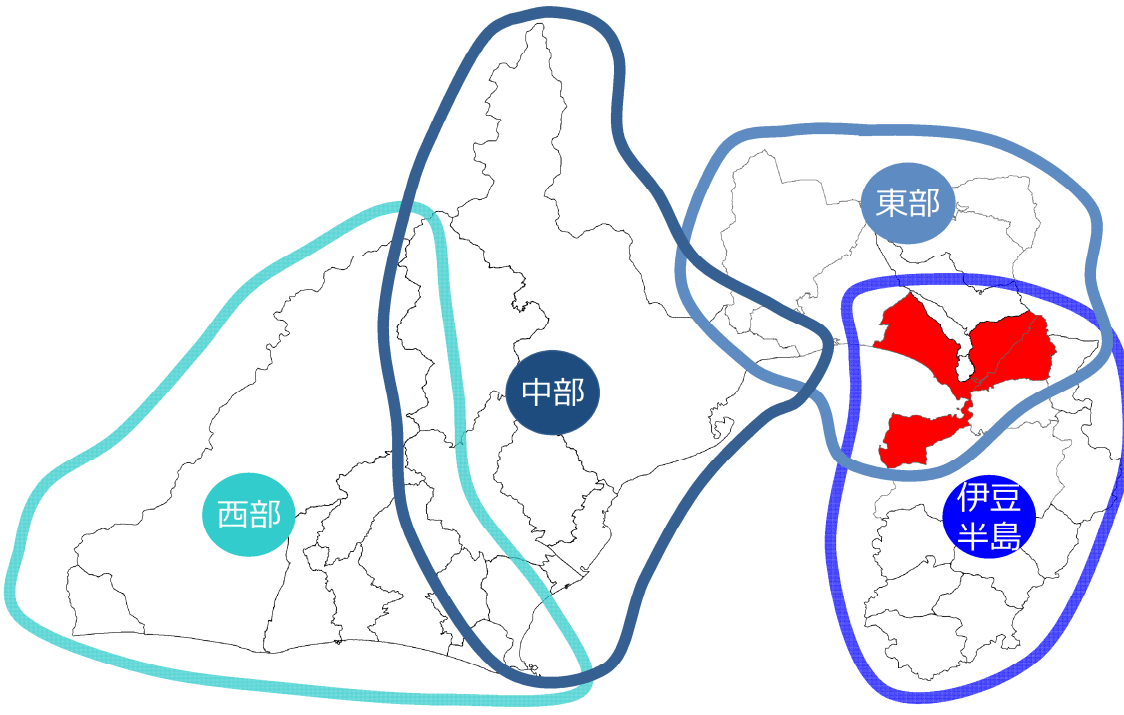
ブロック割 4ブロック
幅をもたせたくくり

静岡県-広域化・共同化計画ブロック割の考え方-

ベース①：基本的な地域区分—4区分
 東部、中部、西部、伊豆半島



ベース②：県総合計画における地域区分
 東部、中部、西部、伊豆半島



- 汚水処理の広域化・共同化を考えるうえで、地域的一体性が認められる圏域は、人口減少や都市構造の変化に伴い変動することから、県総合計画における幅をもたせた地域区分を、ベースのひとつとする。
- 沼津市、三島市、函南町（右図赤着色）は「東部ブロック」に属するが、伊豆半島活性化のために広域的に組織された「(一社)美しい伊豆創造センター」の構成市町のため、¹⁴「伊豆半島ブロック」にも属する。

静岡県-広域化・共同化計画ブロック割の概要-

幅をもたせたブロック割

※ブロック線（太線）にかかる市町は、課題に応じて他ブロックと連携する可能性を示す。

(例) 富士市：東部ブロックに属しているが、中部や伊豆半島のブロックとも連携可能性あり。

モデルブロック

①西部ブロック

- ・中東遠地域（磐田市、掛川市、袋井市、森町）では、勉強会にて、污泥処理と維持管理について協議を実施。
- ・また、同地域は、同一の維持管理業者が多い。
- ・浜松市では西遠浄化センターのコンセッション方式による運営（H30～）がなされてる。

②中部ブロック

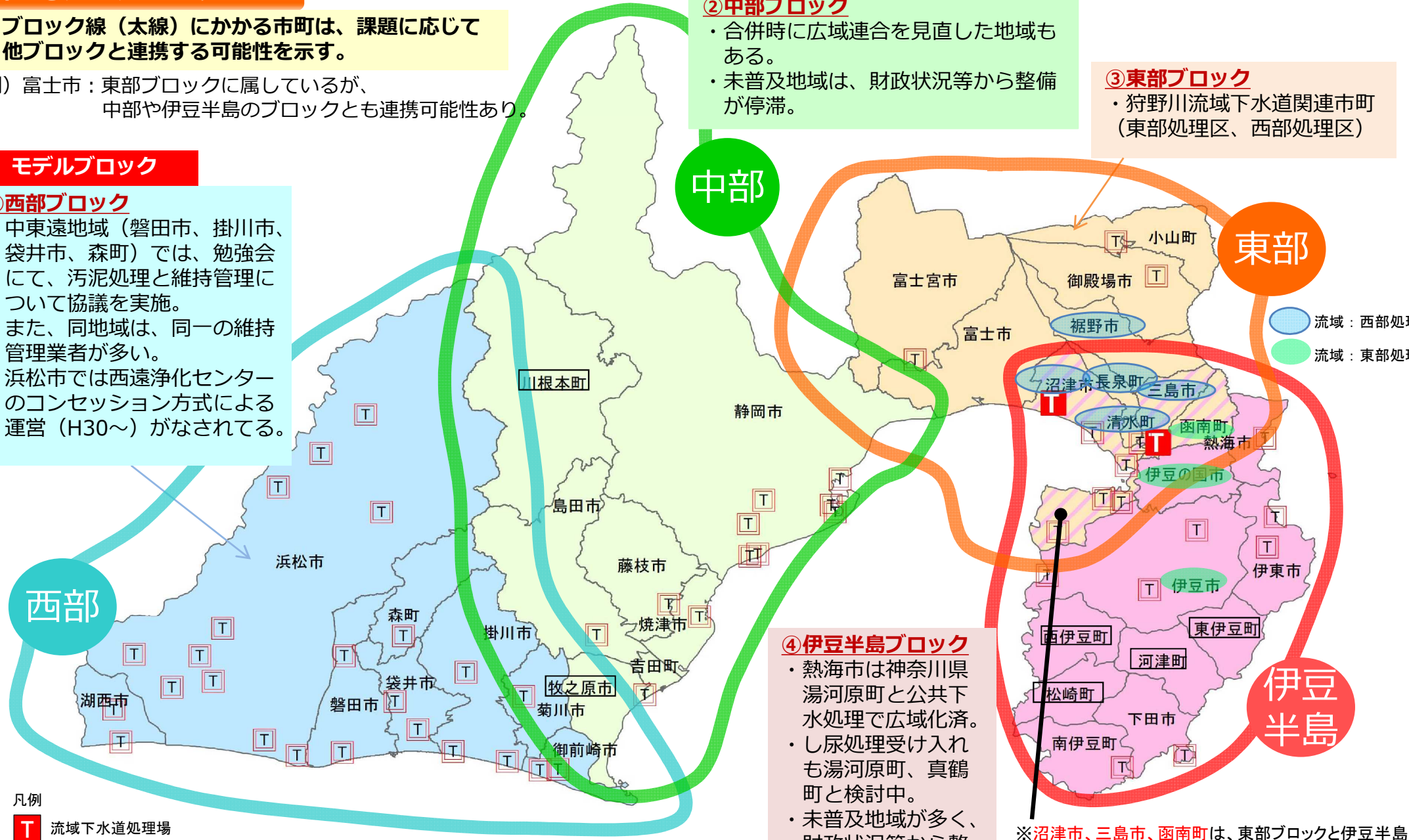
- ・合併時に広域連合を見直した地域もある。
- ・未普及地域は、財政状況等から整備が停滞。

③東部ブロック

- ・狩野川流域下水道関連市町（東部処理区、西部処理区）

④伊豆半島ブロック

- ・熱海市は神奈川県湯河原町と公共下水処理で広域化済。
- ・し尿処理受け入れも湯河原町、真鶴町と検討中。
- ・未普及地域が多く、財政状況等から整備が停滞。



凡例

- T 流域下水道処理場
- T 単独公共下水道処理場
- 下水道未実施

※沼津市、三島市、函南町は、東部ブロックと伊豆半島ブロックの双方に属する(重複)。

ブロック割の考え方

ベース		
考え方	①基本的な地域区分	②県総合計画における地域区分
ブロック数	4ブロック	4ブロック
ブロック構成市町	【①西部】 浜松市、湖西市、菊川市、掛川市、袋井市、磐田市、御前崎市、森町	【①西部】 浜松市、湖西市、菊川市、掛川市、袋井市、磐田市、御前崎市、森町 (川根本町、島田市、牧之原市)
	【②中部】 静岡市、焼津市、藤枝市、島田市、牧之原市、川根本町、吉田町	【②中部】 静岡市、焼津市、藤枝市、島田市、牧之原市、川根本町、吉田町 (浜松市、森町、掛川市、菊川市、御前崎市、富士宮市、富士市)
	【③東部】 富士市、富士宮市、沼津市、三島市、伊豆の国市、伊豆市、函南町、裾野市、御殿場市、小山町、長泉町、清水町	【③東部】 沼津市、富士市、富士宮市、三島市、函南町、裾野市、御殿場市、小山町、長泉町、清水町 (静岡市、熱海市、伊豆市、伊豆の国市)
	【④伊豆半島】 熱海市、伊東市、下田市、南伊豆町、東伊豆町、河津町、松崎町、西伊豆町	【④伊豆半島】 熱海市、伊東市、下田市、南伊豆町、東伊豆町、河津町、松崎町、西伊豆町 (富士市、裾野市、長泉町、清水町)



★:モデルブロック

◎ ブロック割
幅をもたせたくくり
4ブロック
★【①西部ブロック】 (構成市町) 浜松市、湖西市、菊川市、掛川市、袋井市、磐田市、御前崎市、森町 (連携可能性のある市町) 川根本町、島田市、牧之原市
【②中部ブロック】 (構成市町) 静岡市、焼津市、藤枝市、島田市、牧之原市、川根本町、吉田町 (連携可能性のある市町) 浜松市、森町、掛川市、菊川市、御前崎市、富士宮市、富士市
【③東部ブロック】 (構成市町) 沼津市、富士市、富士宮市、三島市、函南町、裾野市、御殿場市、小山町、長泉町、清水町 (連携可能性のある市町) 静岡市、熱海市、伊豆市、伊豆の国市
【④伊豆半島ブロック】 (構成市町) 熱海市、伊東市、下田市、南伊豆町、東伊豆町、河津町、松崎町、西伊豆町、伊豆の国市、伊豆市、沼津市、三島市、函南町 (連携可能性のある市町) 富士市、裾野市、長泉町、清水町

緑字:重複する市町

ブロック割の考え方

1. **基本的な地域区分**と**県総合計画における地域区分**をベースとし、以下4つのブロック割とする。

(※ 静岡県の新ビジョン「富国有徳の『美しい“ふじのくに”』の人づくり・富づくり」
基本構想・基本計画（案）による地域区分と同一の地区単位）

➡ **①西部ブロック、②中部ブロック、③東部ブロック、④伊豆半島ブロック**

2. 課題により連携する市町が異なることを想定し、**幅をもたせたくくり**とする。

ブロック線にかかる市町は、今後のブロック会議において連携する市町やブロックが決まる。

モデルブロックの選定

➡ **西部ブロック（前頁図①ブロック）**

- **西部ブロックの中東遠地域**では、下水道施設管理広域化勉強会をH27年度から実施し、広域化に関して関心が高い。
- 同一の維持管理会社が多い。

今後の課題

- 広域化・共同化アンケートや意見交換会を実施した結果、市町を跨いだ連携に対する知識が乏しいため、具体的な取組がわかる事例紹介等を継続的に実施。
- 財政指標等、現状分析を行い、広域化・共同化に取り組む市町の**適当なマッチングを提示**する。
- ブロックごとに意見を出し合い、課題の洗い出しを行う。
- ブロックの**リーダーとなる市町に対してメリットを提示**する。

島根県

広域化・共同化計画 ブロック割概要



【県の概要】(2017.10)

8市10町1村

面積：6,708km² (全国19位)

人口：684,668人 (全国46位)

↓ 2025社人研推計値

622,000人

人口密度：102.06人/km² (全国43位)

↓ 2025

92.73人/km²

考え方
のベース

県の行政区分
(土木部出先事務所) : 7

➤ 県の土木部出先事務所は管内別に
7ブロック



観点 流域下水道の同処理区

➤ 流域下水道の構成市を考慮する。
(宍道湖流域下水道西部処理区は出雲市と一部
松江市に跨る)

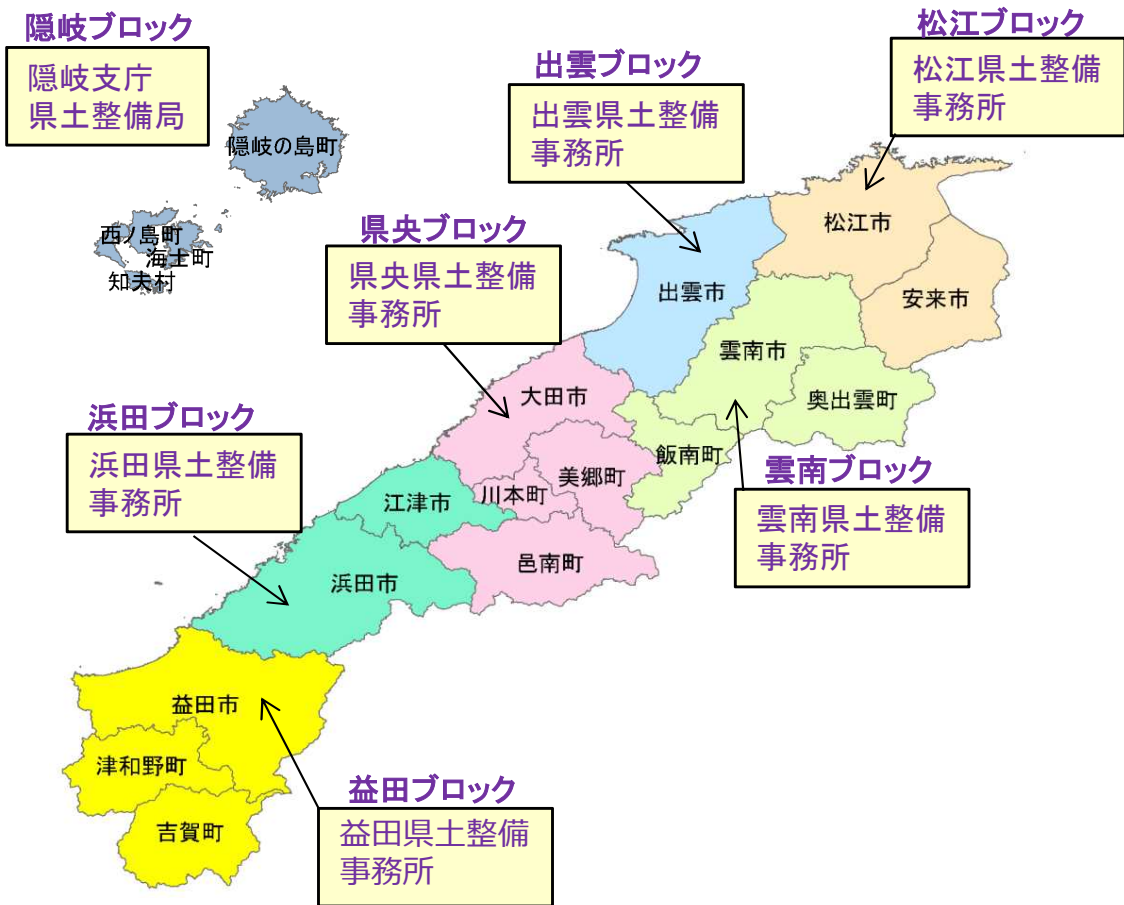


ブロック割 7ブロック

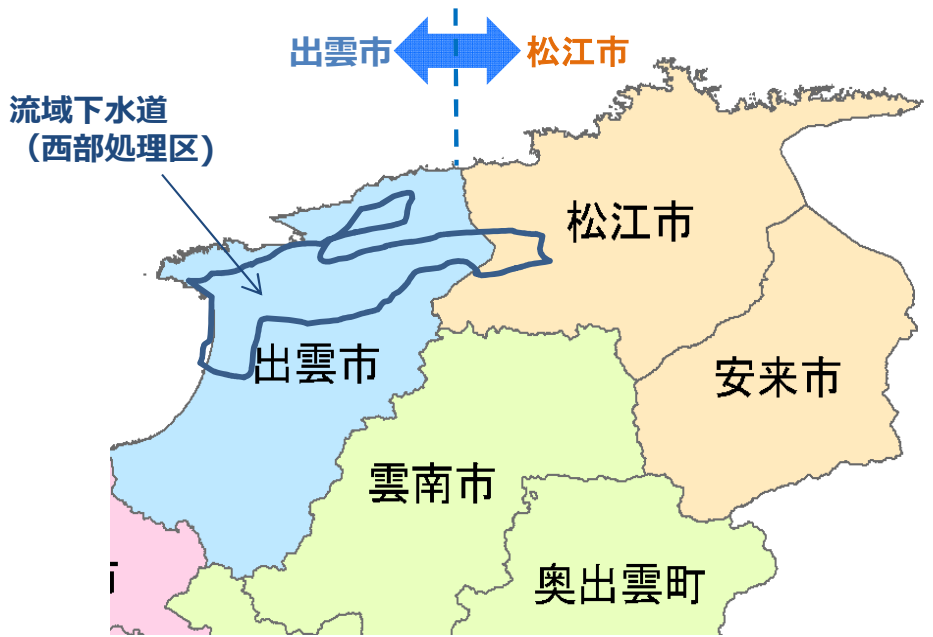
島根県 -広域化・共同化計画ブロック割の考え方-

ベース：土木部出先事務所の管内別をベースに検討

観点：流域下水道の処理区をつながりから更にグルーピング



流域下水道西部処理区は、出雲市と松江市に跨っているため、出雲ブロックは松江市をオーバーラップさせてブロック割を設定。
(松江市は出雲ブロックと松江ブロックが重複)

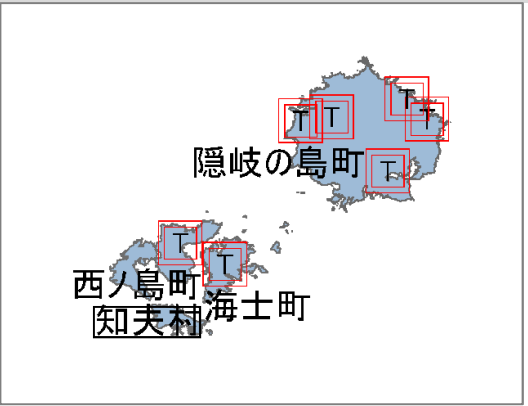


島根県 - 広域化・共同化計画ブロック割の概要 -

土木部出先事務所の管内別によるブロック割

⑦ 隠岐ブロック

- ・ 隠岐の島町でMICS事業を実施中
- ・ 海士町でMICS事業完了



② 出雲ブロック (松江市含む)

- ・ 宍道湖流域下水道 (西部処理区) 関連市
- ・ 農集と流域の接続を検討中

※ 松江市は①松江ブロックと②出雲ブロックに属する

モデルブロック

④ 県央ブロック

- ・ 美郷町、川本町、邑南町で連携し、組合でし尿の一括処理
- ・ 污水处理区域が点在

① 松江ブロック

- ・ 宍道湖流域下水道 (東部処理区) 関連市
- ・ 農漁集と流域の接続を検討中

③ 雲南ブロック

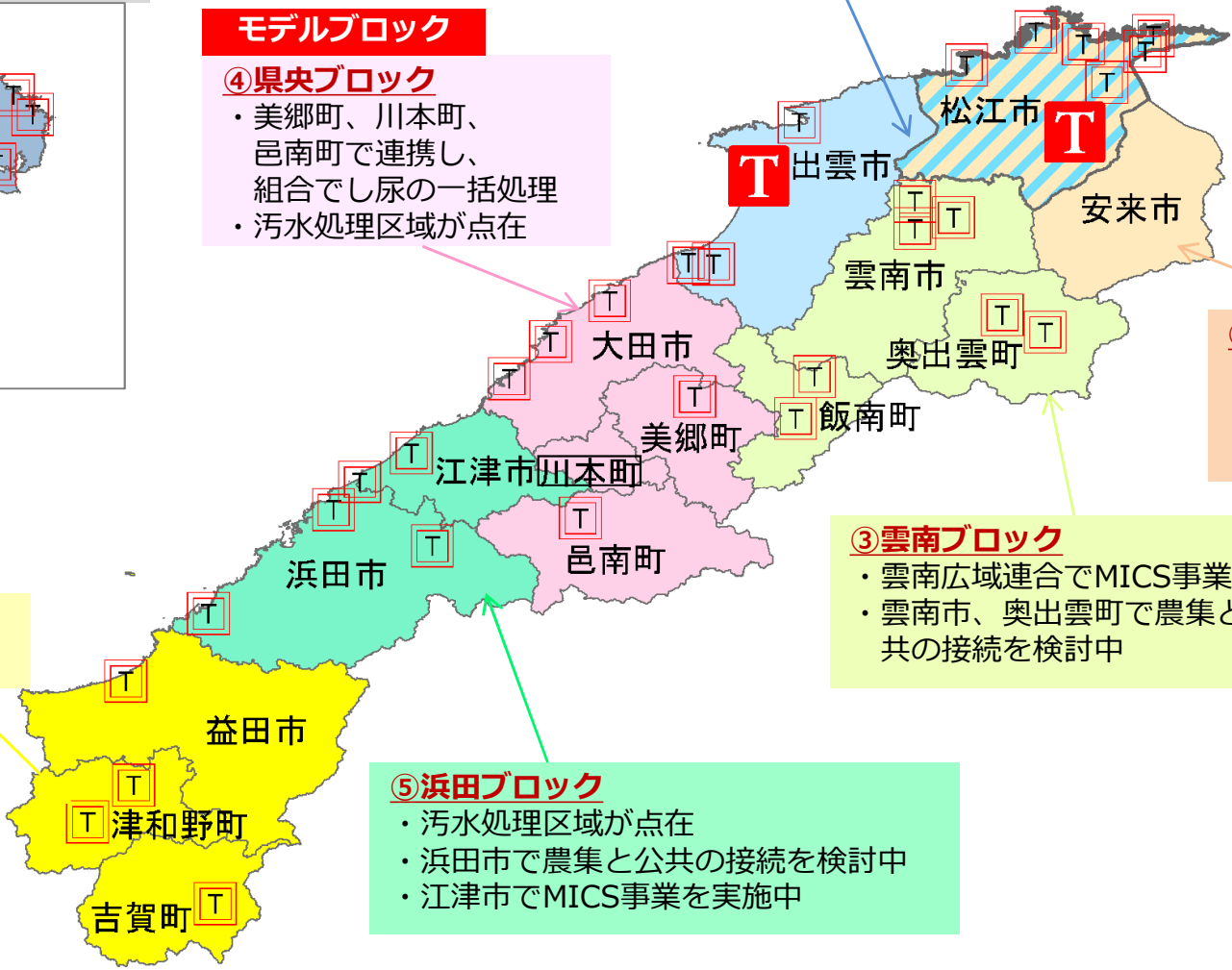
- ・ 雲南広域連合でMICS事業完了
- ・ 雲南市、奥出雲町で農集と公共の接続を検討中

⑥ 益田ブロック

- ・ 污水处理区域が点在

⑤ 浜田ブロック

- ・ 污水处理区域が点在
- ・ 浜田市で農集と公共の接続を検討中
- ・ 江津市でMICS事業を実施中



- 凡例
- T** (赤) 流域下水道処理場
 - T** (白) 単独公共下水道処理場
 - (黒) 下水道未実施

ブロック割の考え方

★:モデルブロック

	ベース
考え方	県の土木部出先事務所の管内別をベース
ブロック数	7ブロック
ブロック構成市町村	【松江ブロック】 松江市、安来市
	【出雲ブロック】 出雲市
	【雲南ブロック】 雲南市、奥出雲町、飯南町
	【県央ブロック】 大田市、美郷町、川本町、邑南町
	【浜田ブロック】 浜田市、江津市
	【益田ブロック】 益田市、津和野町、吉賀町
	【隠岐ブロック】 隠岐の島町、西ノ島町、海士町、知夫村



観点

流域下水道の繋がりを考慮し、2ブロックに属する

	◎ ブロック割
	流域下水道の処理区のつながりを考慮
	7ブロック
ブロック構成市町村	【①松江ブロック】 松江市、安来市
	【②出雲ブロック】 出雲市、松江市
	【③雲南ブロック】 雲南市、奥出雲町、飯南町
	★【④県央ブロック】 大田市、美郷町、川本町、邑南町
	【⑤浜田ブロック】 浜田市、江津市
	【⑥益田ブロック】 益田市、津和野町、吉賀町
	【⑦隠岐ブロック】 隠岐の島町、西ノ島町、海士町、知夫村

ブロック割の考え方

ブロック割は、市町村間の繋がりが比較的高い土木部出先事務所の管内単位とし、流域下水道の処理区を考慮する。

県東部⇒①松江ブロック、②出雲ブロック、③雲南ブロック
県西部⇒④県央ブロック、⑤浜田ブロック、⑥益田ブロック
隠岐 ⇒⑦隠岐ブロック

モデルブロックの選定

→ 県央ブロック（前頁図④ブロック）

【選定理由】

- 下水道整備における10年概成達成の見込みがある。（大田市除く）
- 美郷町、邑南町において、汚水処理施設共同整備事業（MICS）を実施しているなど、広域化・共同化への関心が高い。
- 汚水処理区域の点在など地理的条件が厳しい島根県の縮図となっている県央ブロックで、広域化・共同化が実現できれば、他ブロックにおいても広域化・共同化の実現の可能性が高くなる。

今後の課題

- 島根県は汚水処理区域の点在など地理的条件が厳しいため、実行可能な広域化・共同化のメニューを検討・立案をすることが重要。

熊本県

広域化・共同化計画ブロック割 概要



【県の概要】(2017.10)

14市23町8村

面積：7,409.44km² (全国15位)

人口：1,765,518人 (全国23位)

↓2025社人研推計値

1,649,000人

人口密度：238.28人/km² (全国27位)

↓2025

222.55人/km²

考え方
のベース

下水道BCPの連携体制：6

- 流域下水道、県の行政区分（出先機関）、既存の自治体間連携を考慮し、6ブロック。



観点① 地形

- 河川流域を考慮する。
(菊池川周辺の処理区は同じブロックとする)



観点② 広域行政圏

- し尿処理を実施している広域連合や広域行政事務組合の構成市町村を考慮する。

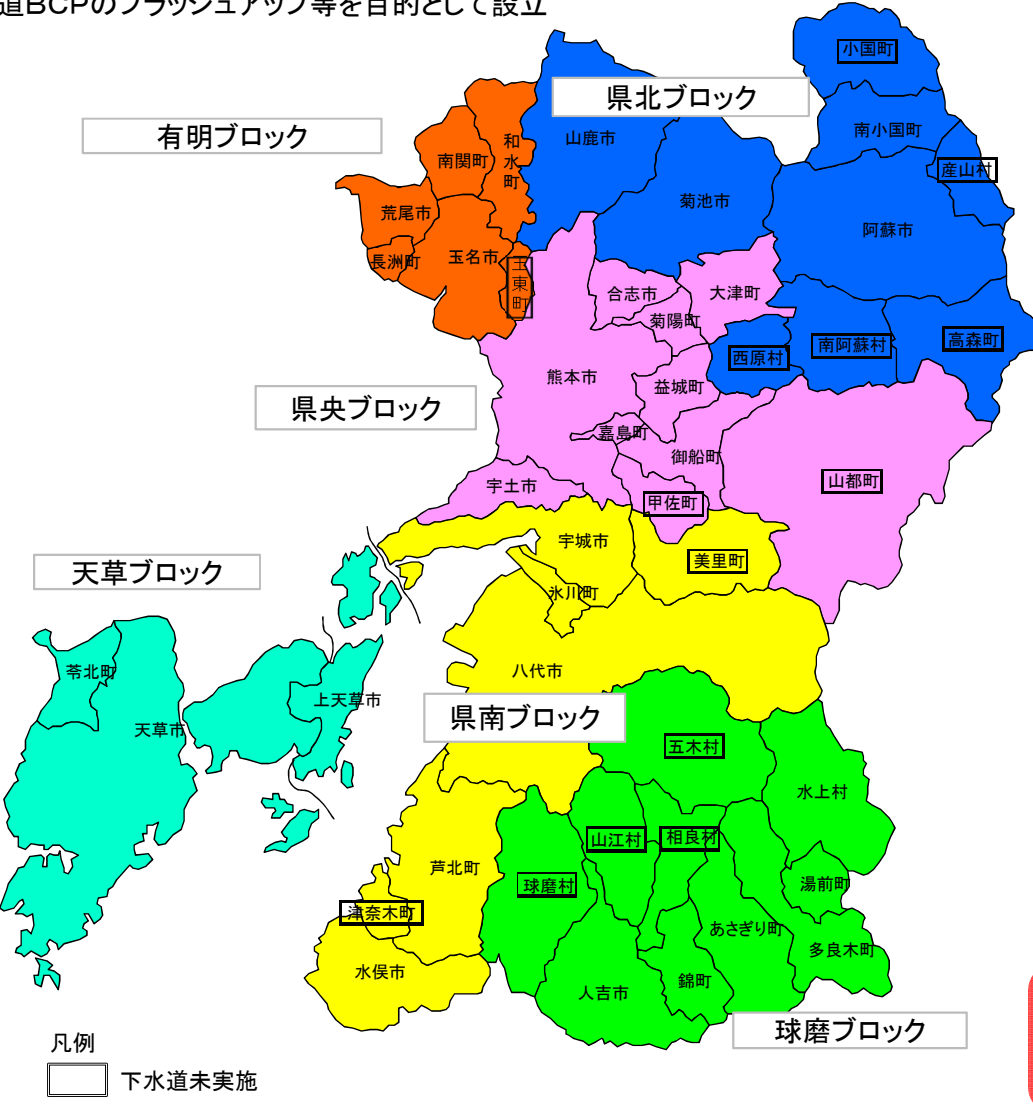


ブロック割 7ブロック

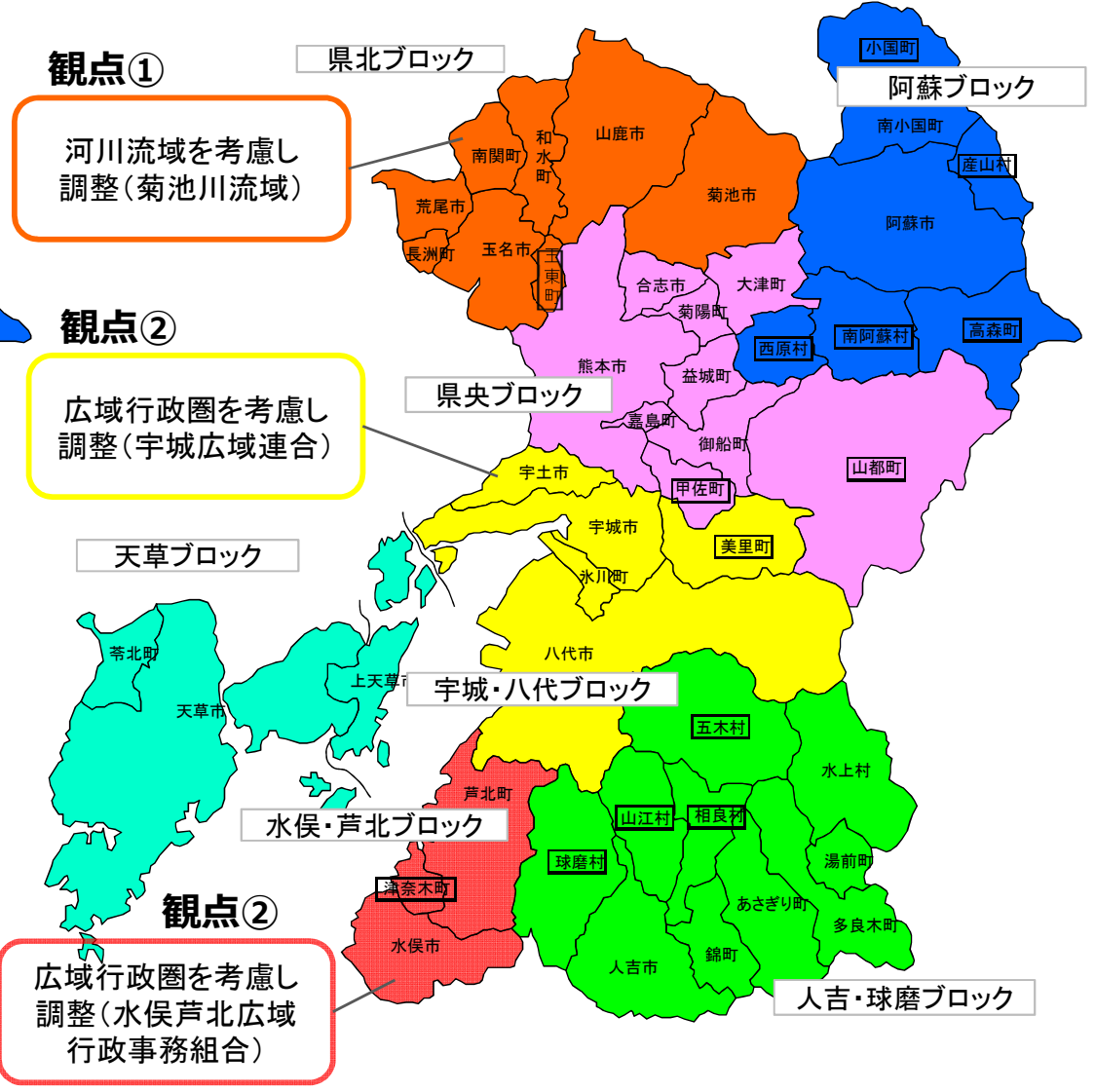
熊本県-広域化・共同化計画ブロック割の考え方-

ベース：下水道BCP連絡協議会をベースに検討

下水道BCP連絡協議会→近隣自治体間の相互支援体制の構築や下水道BCPのブラッシュアップ等を目的として設立



観点：地形的配慮、広域行政圏の枠組みから更にグルーピング



【下水道BCPブロック協議会をベース検討に着手】
BCPブロックは、**流域下水道、県の行政区分(出先機関)、既存の自治体間連携**を考慮してブロック割を検討するとともに協議会の効果を高める為に、ブロックを細分化しすぎないように6ブロックに分割。

【地形的配慮、広域行政圏に考慮】
河川や山地等の地形的配慮を加味するとともに生活排水処理の全てを対象とするため、し尿処理を実施する広域行政圏へ配慮した枠組みへ調整し、再分割を実施。計画の実効性を向上させるため、7ブロックへ細分化。

熊本県-広域化・共同化計画ブロック割の概要-

下水道BCP連絡協議会を基本とし、地形、広域行政圏を考慮したブロック割

モデルブロック

① 県北ブロック

- ・ 菊池広域連合（一部）、有明広域行政事務組合、山鹿植木広域行政事務組合（一部）
- ・ 多数の小規模農集排
- ・ 広域化・共同化の関心高い

③ 県央ブロック

- ・ 熊本北部流域関連市町
- ・ 菊池広域連合（一部）
- ・ 御船地区衛生施設組合

⑤ 天草ブロック

- ・ 上天草衛生施設組合

④ 宇城・八代ブロック

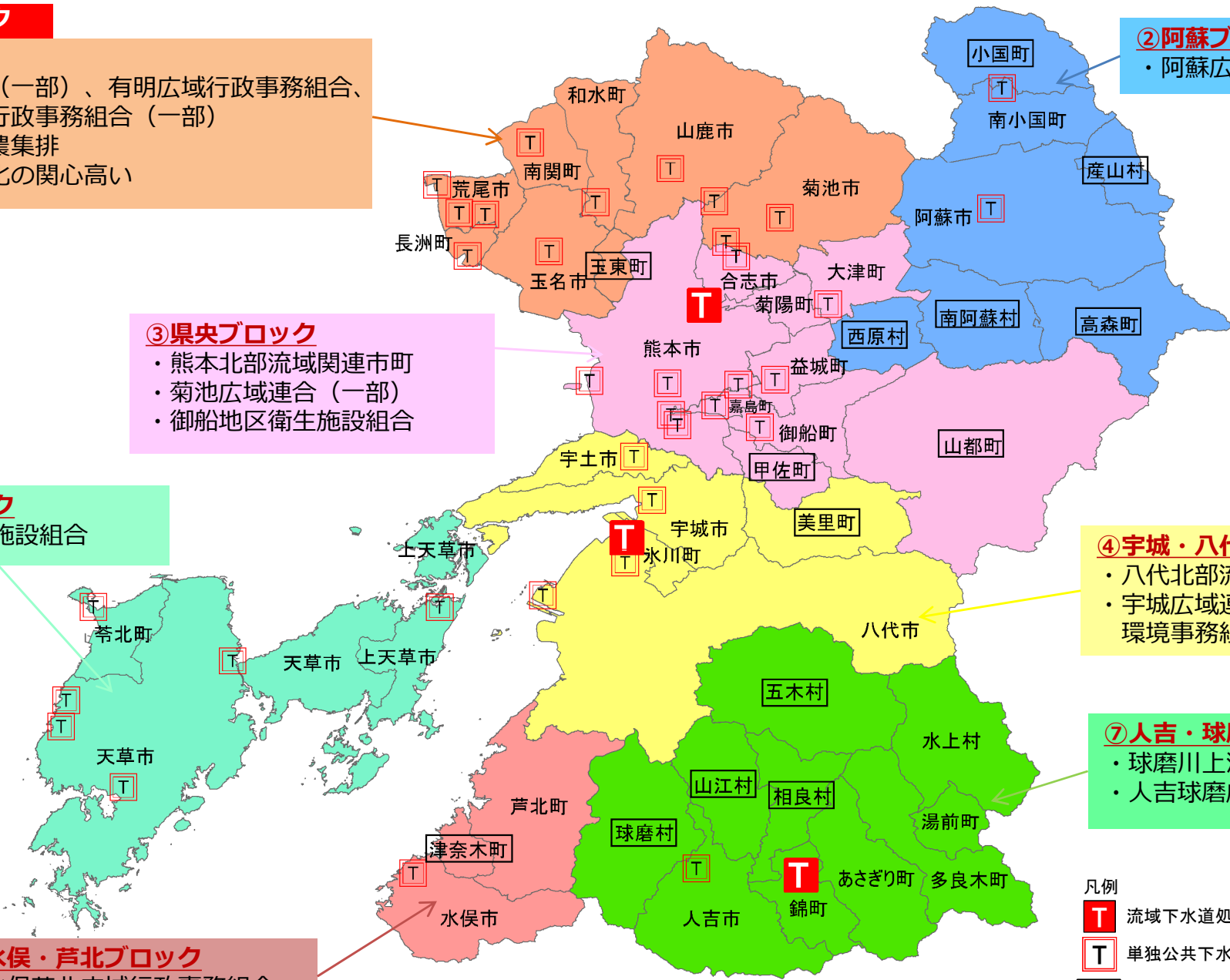
- ・ 八代北部流域関連市町
- ・ 宇城広域連合、八代生活環境事務組合

⑦ 人吉・球磨ブロック

- ・ 球磨川上流流域関連市町
- ・ 人吉球磨広域行政事務組合

⑥ 水俣・芦北ブロック

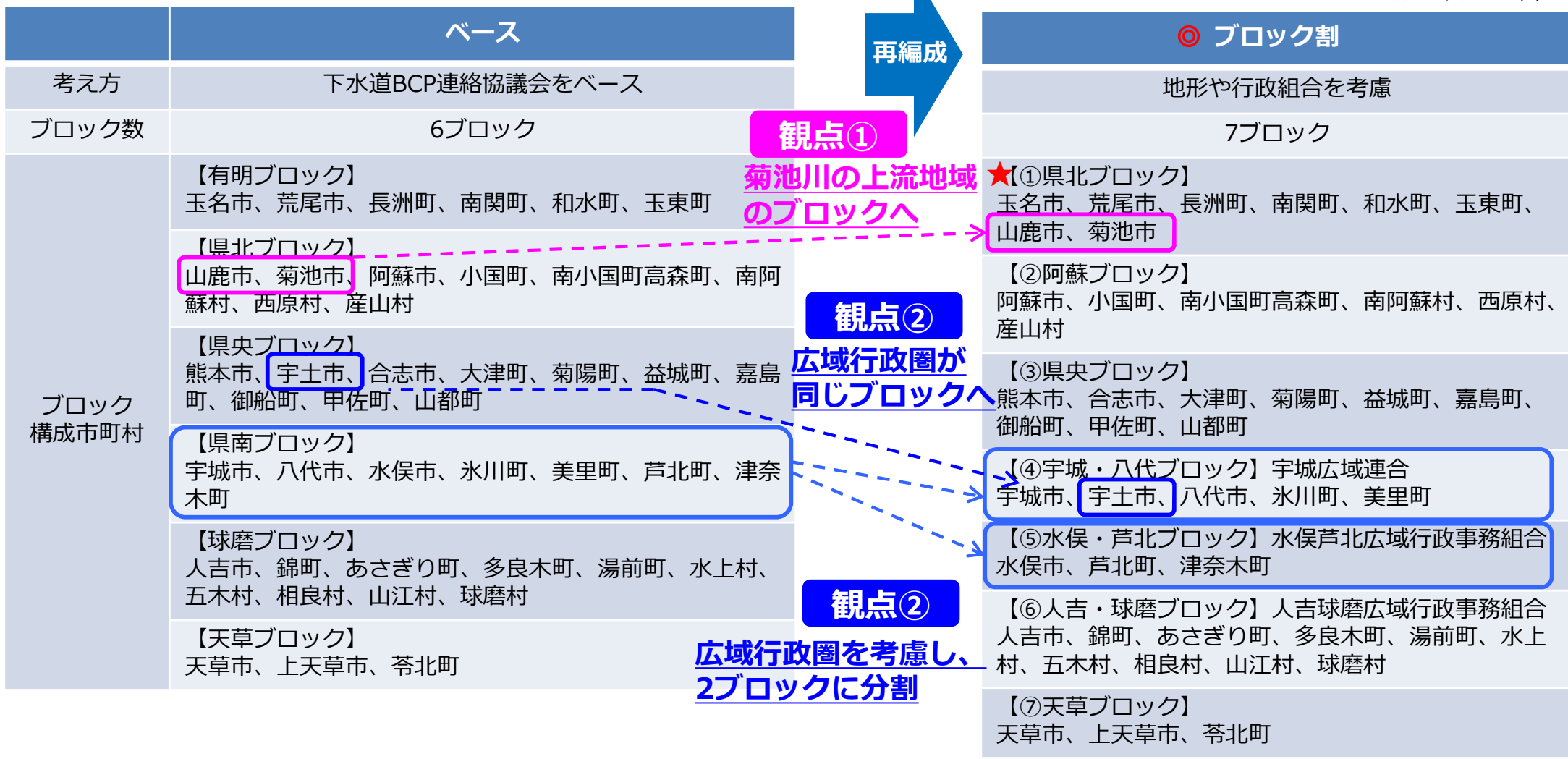
- ・ 水俣芦北広域行政事務組合



凡例
T 流域下水道処理場
T 単独公共下水道処理場
 下水道未実施

熊本県-広域化・共同化計画ブロック割の概要-

ブロック割の考え方



★:モデルブロック

ブロック割の考え方

1. 震災後に設立した下水道BCP連絡協議会のくくりを基本とし、下記2点を優先度順に考慮。

① 地形的配慮による区分け

4つの一級河川による平野部や急峻な山地、本土と橋でつながる離島自治体など、様々な地形条件があるため、実効性の高い計画とする為に地形的条件を配慮。

② 都市圏による区分け

広域行政事務組合等を考慮。

➡ ① 県北ブロック、② 阿蘇ブロック、③ 県央ブロック、④ 宇城・八代ブロック、
⑤ 天草ブロック、⑥ 水俣・芦北ブロック、⑦ 人吉・球磨ブロック

モデルブロックの選定

県北ブロック（次頁図①ブロック）

【選定理由】

- 広域化・共同化の意向が強い。
- 小規模の農集排施設が多く、集約等の検討が必要。

今後の課題

- 市町村に広域化・共同化アンケートを実施した結果、およそ3割の市町村しか広域化への関心を示しておらず、**積極的な取組に関しては希薄**であるため、勉強会や意見交換会等を通じて、機運醸成を図っていききたい。
- し尿は広域事務組合で処理を行っているため、連携体制の構築が必要。
- 小規模農集排の統廃合。